

広げる！ 深める！ 高める！

# 放送大学のゼミ

文・写真 小泉仁美



## 1 学びを身近に、広がる世界

まずお邪魔したのは、八戸学院大学地域経営学部の教授を務める根城隆幸先生のゼミ。4〜9月の第一学期のテーマは「子どもの貧困を考

える」です。新聞記事やさまざまな統計などを引用したレジュメを使いながら、貧困の実態や社会的背景について学



びます。根城先生と学生が真剣に、時には和やかなムードで、意見や感想を交わし合います。この日は、青森県の子どもの食堂の設置数がまだ少ないというローカルな話題も上がりました。学生は「先生のお話には、普段ニュースを見るだけでは知りえない情報もたくさんあり、未知の世界を知ることが出来ます。漠然としていた貧困というテーマが、ぐっと身近に感じられるようになりまし」と語りま

す。根城先生は「ゼミとは、対話を通じて新たなことに興味を抱いたり、学びの習熟をさらに深めたりする場です。学生たちの意見や気づきを聞くことは、私自身にとっても大変勉強になりますし、刺激になります」と話してくれまし

ゼミは「ゼミナール」の略で、演習の意味です



## 2 理解を深める、意欲を高める

放送大学は、自宅受講できる通信制大学。テレビやラジオ、インターネットを通じて受ける放送授業や先生から直接教わる面接授業があります。このほかに、少人数形式で行われる「ゼミ」が設けられていることを知っていますか？ 放送大学青森学習センター八戸サテライトスペースでも、2人の先生によるゼミが隔週で開講されています。今回は、それぞれのゼミの様子をレポートします。



もう一つのゼミは、八戸工業大学名誉教授の若生豊先生が担当しています。今学期は「今日の生命科学を考える」をテーマに、遺伝子、免疫、心身の健康などについて、入門書を読み解きながら考えます。この日の講義は「神経疾患

と脳内免疫」がテーマ。アルツハイマーや統合失調症を例に、神経や脳の機能について学びます。学生たちが「先生が自由に発言できる雰囲気をつくってくれるので、毎回楽しい」と口をそろえるように、若生先生に質問を投げかける場面も見られ、教室は活気に満ちています。若生先生も「知識の吸収はもちろんですが、学生には疑問を持ってゼミに臨んでもらいたい」と話し、学生の質問に丁寧に答え

ます。ゼミでは、特殊な顕微鏡を使ったり、専門的なデータベースにアクセスしたりする実習の回も設けています。授業の聴講だけでは得られない発見があり、学生にも好評。ゼミは学びを深め、モチベーションを高める機会になっているようです。

## ゼミの取材を終えて…

先生のお話を楽しそうに耳を傾ける学生の姿が印象的でした。放送大学は、学びたい人がいつでも学べる「開かれた大学」。学ぶ場や時間の選択肢が豊富に用意されています。ゼミの時間では、そのことを強く感じる事ができました。

ゼミは弘前市の青森学習センターでも開講されています。現在は10月入学の出願を受け付け中。ぜひこの機会に、学生の仲間入りをしてみたいはかがですか？



若生豊先生



根城隆幸先生

単位にはなりません、どのゼミにでも気軽に参加できます。

